

原釜尾浜防災緑地 を考える 住民会議 第2回



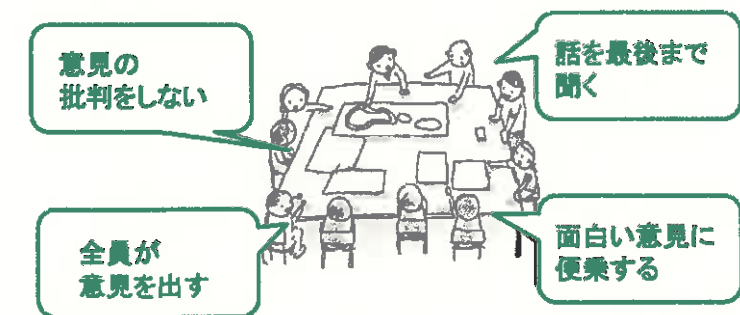
今日のプログラム

- 18:30 ごあいさつ
 - 18:40 前回のふりかえり
 - 18:45 事例紹介「みんなで作る災害後の活動」
 - 19:00 話し合いをうまくいかせるゲーム
 - 19:10 意見交換①「緑地でやりたい活動を選ぶ」
 - 19:20 意見交換②「活動している様子を描こう」
 - 20:00 意見交換③「必要な整備を考えよう」
- 開催日時：2013年11月5日(火) 18:30～20:30
場所：相馬市東部公民館 参加者：24名



話し合いのコツ

話し合いをうまくいかせるコツを伝えました。その後、2人1組のペアになって相手を誘って会話を弾ませるゲームをしました。



話し合いをうまくいかせるコツはこの4つです。これからの会議でもコツを活かしていきましょう。



「いいですね、こうしましょう！」の話し方で会話がどんどん弾みます。

事例紹介

災害を経て住民や活動団体が生み出した活動を紹介しました。知恵と工夫と思いが込められた活動はその他の地域でも広がりを見せるモデルとなっています。



行列ができる防災教育「イザ！カエルキャラバン」

防災をキャンプで学ぶ「レドベアサバイバルキャンプ」

会話を生み出す活動「ヒアーツ」

支援からしごとへ「イーストループ」

やってみたい4つの活動

前回話し合ったやってみたい活動を整理し4つに分類し、自分のやってみたい活動を選びチームに分けられました。

<h3>大切に</h3> <p>住民の手で緑地をつくる、防災を学ぶ、日曜日などで緑地を大切に活動</p>	<h3>受け継ぐ</h3> <p>盆踊り、神楽、太鼓などを受け継いでいく活動</p>	<h3>あそぶ</h3> <p>昔の遊びを伝える、キャンプ、ターザンごっこなど子供も大人も遊ぶ活動</p>	<h3>集まる</h3> <p>花見、芋煮会、スポーツで交流などみんなが集まる活動</p>
--	--	---	---

活動の様子を描く

チームで、開園前、開園後にわけて数年先の活動の様子を描きました。すると各チームには、共通する4つの活動がありました。

活動について勉強する	活動を継続する	楽しく清掃活動する	管理運営団体を作る
------------	---------	-----------	-----------

活動にほしい整備

各チームで取り組む活動にあつたらしい整備を話し合いました。ここでは、共通して出て来た整備を紹介します。

芝生	ベンチ	水飲み場	トイレ	歩道と街灯	休憩所
案内所	駐車場	野外ステージ	ツリーハウス	実のなる樹木	自然エネルギー

参加者の感想

- 自分だけでは思いつかない意見やアイデアが出るので面白い。
- 将来の夢を人と話す機会ができて良かった。
- 会議終了後も携われる機会がほしい。
- 話して考えるだけでなく実行できると良い。
- 参加者がもっと増えると良い。

次回のお知らせ

第3回住民会議は
12月3日(火) 18:30～
相馬市東部公民館
テーマ「防災緑地の具体的なイメージを共有する」

<お問い合わせ先>福島県相双建設事務所
担当：道路・橋梁課 佐藤・中村 電話 0244-26-1218

大切に
する

人と自然をつなぐ活動に取り組む

1年後

3年後

5年後

マルシェ
(市場)

- ・どこにもないマルシェを考える
- ・計画を立てて仲間を集める
- ・広報活動する

- ・マルシェが開店し、さらなる集客と出店の呼びかけする

- ・マルシェ用の地域通貨を発行
- ・高齢者福祉と一体にして進める
- ・体験プログラムが出来ている
- ・人材、趣味人を増やす

公園
づくり

- ・地域の樹木から種をとり住民で育てる
- ・植林する
- ・公園の名前をつける
- ・観察会や勉強会をやる
- ・ツリーハウスを修理する

- ・オープニングセレモニーを作る
- ・色んなイベントがスタートする(例：ツリーハウス、畑など)
- ・みんながツアーガイドをやる
- ・下草刈りや森づくりを楽しむ
- ・楽しい清掃活動をやる
- ・CATVで進捗を放送する

- ・体験プログラムが出来ている(自然教育、農業、健康)
- ・フィールドアスレチックや自然観察会を開く
- ・美観、景観を保つ

自然
エネルギー

- ・楽しいエコ教室

- ・参加者がイベントを通して学ぶ

- ・他地域の人参加できる機会をつくる

災害教育

- ・楽しい防災体験で防災士の育成

- ・参加者がイベントを通して学ぶ

- ・災害教育のプログラムがある
- ・他地域の人参加できる機会をつくる

漁業体験

- ・計画を立てて仲間を集める
- ・漁業について勉強する
- ・元漁師さんが帰ってくる(かも)

- ・体験に大人/子供別のコースが出来ている

- ・体験プログラムが出来ている
- ・定例会を開き、地元住民と観光業、漁業と一体で実施する

活動にほしい
整備

- ・芝生(広場)
- ・雨でも開催できる屋根付きの場所
- ・100年後を考えた樹木と剪定
- ・自然エネルギー設備
- ・畑
- ・公園の名前
- ・みんなが集まるシンボル
- ・みんなの気持ち

受け継ぐ

相馬の祭りを受け継ぐ

1年後

- ・ 学生に受け継ぐ (小中高校生)
- ・ 小中学校で練習会、演奏会、発表会を開催する
- ・ 活動を継続する

3年後

- ・ 楽曲を覚えるため携帯に録画する
- ・ 車の中で耳で覚える
- ・ 参加する若者を5名増やす
- ・ 活動を継続する

5年後

- ・ みんなが参加したくなる祭りにしたい
- ・ ふるさとで先祖の供養をするそのときに盆踊りする
- ・ 盆踊りを継続する
- ・ 5年後までは守り続ける

若者の参加

たいこシニア部

- ・ たいこをマスターしたい

- ・ 地元の大会に出る
- ・ 相馬高校の女子のたいこチームと一緒にやりたい (かっこいい)

- ・ たいこの大会に出場する

活動にほしい整備

- ・ 野外ステージ
- ・ 芝生
- ・ ベンチ
- ・ 水飲み場
- ・ 駐車場
- ・ 歩道と街灯
- ・ 避難場所と防災機能

課題

- ・ 現在、30代と50代の間の年代がない
- ・ 小さい頃からの意識づくりが必要
- ・ 祭を受け継ぐ青年部が必要
- ・ 大人に教えるのが難しい

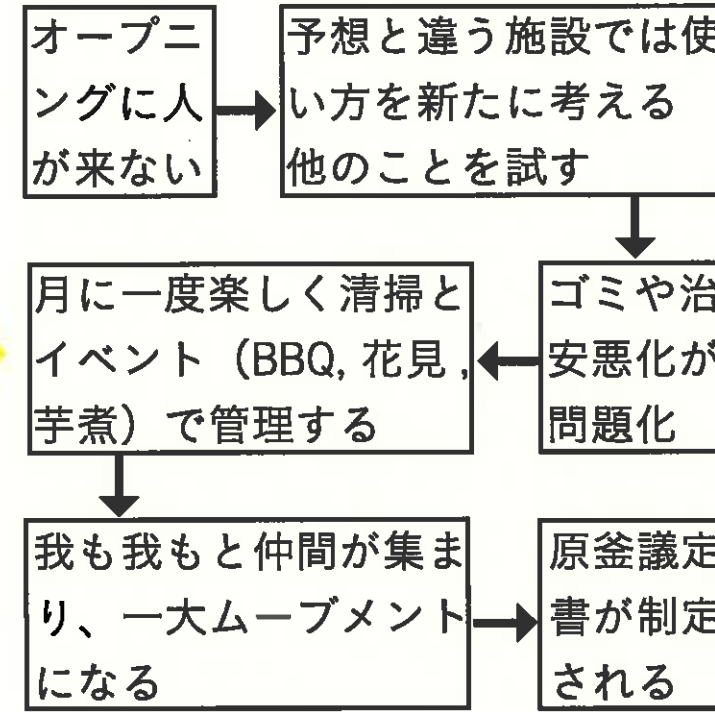
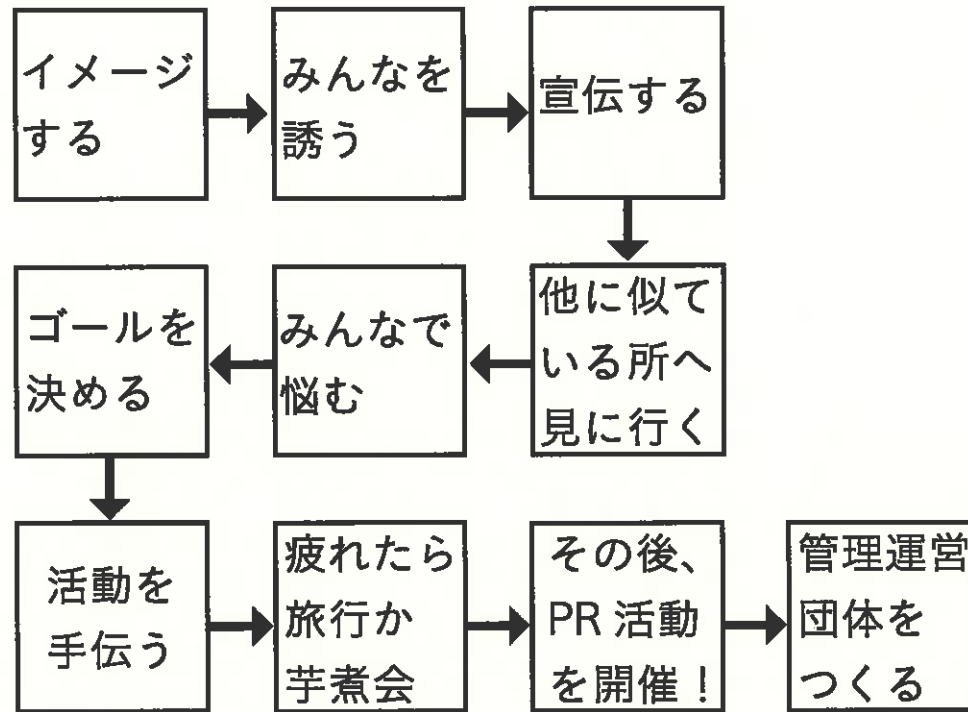
集まる

自分たちが活動して仲間を集める

1年後

3年後

5年後



- 芋煮会**
- ・家庭の自慢料理を持ち寄り競う
 - ・原釜のお年寄りから子供までみんなで芋煮会する
 - ・お祭りの時も芋煮会をやる

- ・試験的に芋煮会を開催する
- ・畑で耕して芋煮会の食材を作る

- 自転車・マラソン**
- ・面白自転車のパレード
 - ・子供に交通教室と芋煮会を開催
 - ・ミニサイクリング大会
 - ・今のマラソンクラブを継続する
 - ・練習会に参加する
 - ・マラソン大会に出場する

- ・コースが走りやすいので内外から人が来る
- ・記録会で、他地域の人と交流
- ・他団体と連携してイベント開催
- ・市民でつくる緑地イベント企画グループを発足

- ・記録会の規模を拡大して松川浦大橋マラソン大会を再開

活動にほしい整備

- ・ベンチ
- ・広場 (大人も子供もスポーツができる)
- ・トイレ
- ・街灯
- ・休憩所
- ・案内所
- ・駐車場
- ・炊事場
- ・テント (自分たちではる)
- ・更衣室
- ・自然エネルギーの設備
- ・震災のキオクを残す碑
- ・距離がわかるコース



あそぶ

子供たちが思いっきり学び、遊べる

1年後

- ・雨でも楽しい遊び
- ・斜面を段ボールですべる
- ・穴を掘ってため池をつくり魚を入れる（昔あった）
- ・親も遊ぶ
- ・昆虫採集、植物を学ぶ
- ・子供達と土づくりして土を選ぶ
- ・苗木を作って育てる
- ・制限なしの遊び場で危険も学ぶ
- ・場所を活用する団体を立ち上げる

3年後

- ・子供と一緒に運営する
- ・子供がイベントを考える会議を開く（のちに子供が運営する）
- ・子供たちのグループができ、先輩から後輩へ伝える
- ・行政任せでは汚すので市民で管理してきれいに保つ
- ・年に一度イベントを開催
- ・定期的に魚にふれあうイベント
- ・市全体の人が集まる場所になっている
- ・動物と遊ぶ
- ・わくわくランドと共存する
- ・みんなで学び、何かの資格にする

5年後

- ・みんなで一緒に緑地をつくっていく
- ・木を一本ずつ植える

全体のながれ

2年後

- ・養殖センターと交渉し協力してもらう

活動にほしい整備

- ・何もない平らな広場
- ・ツリーハウス
- ・トイレ
- ・段ボールですべる斜面
- ・少し危険なくらいの遊び場
- ・火を使える場所
- ・じゃぶじゃぶ池
- ・魚をいれる穴
- ・木のブランコ
- ・カブトムシを育てるハウス
- ・ドッグラン